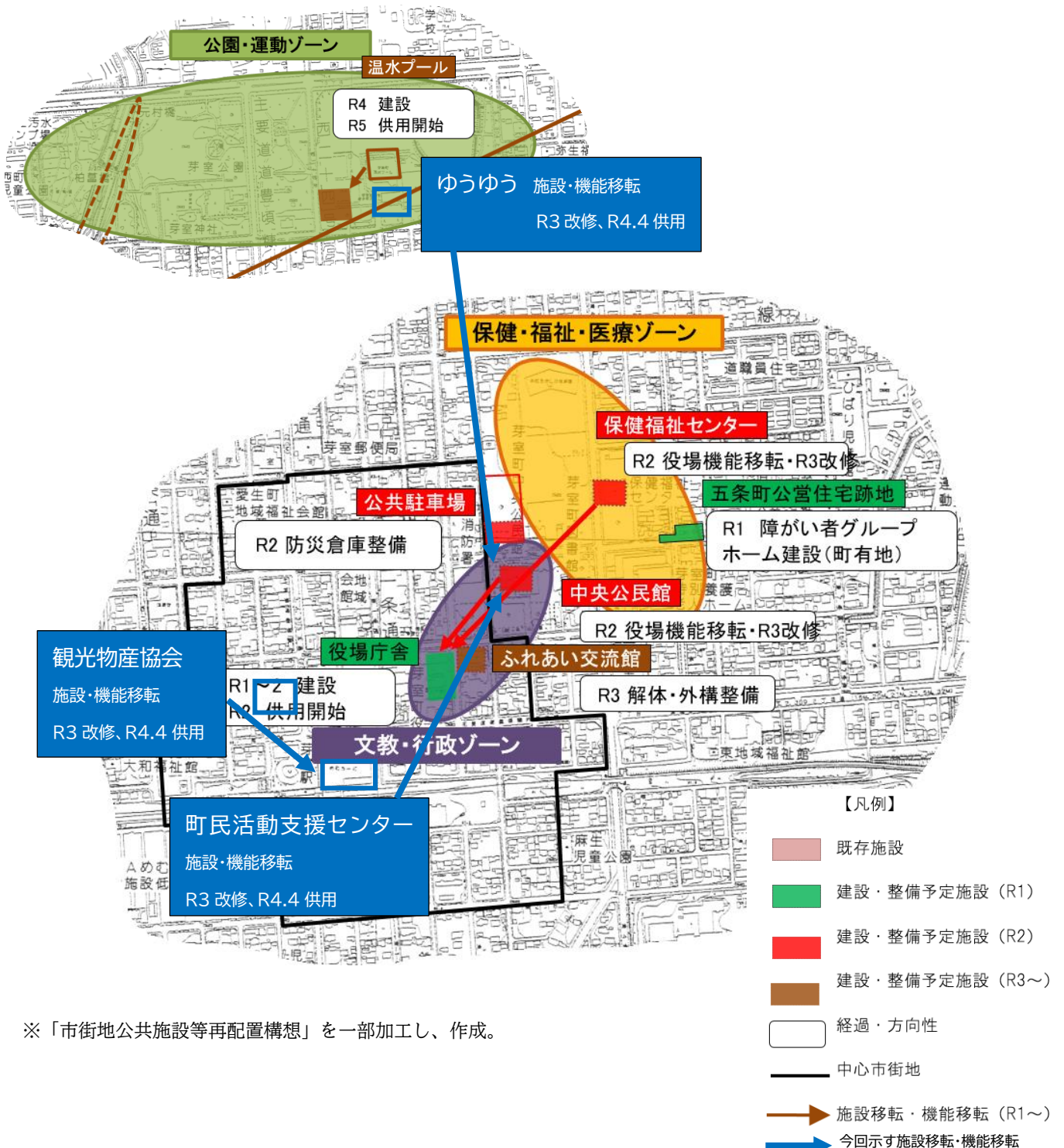


芽室町観光物産協会、めむろ町民活動支援センター及び適応指導教室ゆうゆうの施設、機能移転について

1 今回示す施設、機能移転の概要

施設、機能名	現在の場所	移転先
芽室町観光物産協会	本通2丁目10-1 (旧勇月)	めむろ一ど1階
めむろ町民活動支援センター	めむろ一ど1階	芽室町中央公民館
適応指導教室ゆうゆう	勤労青少年ホーム	



※「市街地公共施設等再配置構想」を一部加工し、作成。

2 施設、機能移転の目的

(1) 芽室町観光物産協会

交通拠点からのアクセスを改善することで観光PR機能を強化する

観光情報を提供する場所は、来町者が集まる交通拠点からのアクセスの良さが重要であるが、観光PR機能を担う観光物産協会は交通拠点である芽室駅から道路をへだてた場所にあるため、来町者に分かりづらい状況にある。

芽室駅は鉄道だけでなくバス及びタクシーの乗降場所であり、公共駐車場も隣接していることから様々な交通手段を利用して来町者が集まってくる。この来町者を観光物産協会に誘導するためにはアクセスの改善が必要であり、そのための最適な場所が芽室駅の隣にある「めむろ一ど」である。

また、移転に併せて「まちの駅」の機能を継承し、休憩スペースを備えるなどして利用者が心地よく滞在できる場所とする。そこで観光情報だけでなく特産品や商店街の情報も提供し、来町者の消費行動に結びつけることで物産振興についても期待できる。

(2) めむろ町民活動支援センター

新たな交流の拠点、活動を見える化し、人と人との気軽につながる場所へ

まちづくりを担う団体の育成や自主的な町民活動の育成など、協働のまちづくりにとって、めむろ町民活動支援センターは非常に大きな役割を果たしてきた。現在のめむろ一どでの地道な活動の結果、多くの活動団体が、積極的に自主的な活動を展開し、まちに活力が生まれてきた。

近年では、従来の活動団体の育成といった機能から、行政と町民活動をつなげるといった当初想定していなかった機能を発揮してきており、これからのまちづくりの担い手として、益々存在感が高まっている。

特に、町民活動支援センターがこれまで担ってきた活動は、教育委員会で展開されるCS（コミュニティスクール）、柏樹学園、生涯学習といった分野とも親和性があり、公民館に移転をすることで、これまで以上にさまざまな世代が気軽に集い、住民自らの手で学びや活動を展開していく場所になると考えている。

このことは、将来的に「公民館」という枠組みを超え、公民館～図書館を含むエリア一帯が町民活動エリアのような形に変化していくことも想定されるものである。

(3) 適応指導教室ゆうゆう

学校区に関係なく児童生徒が安心して通所できる場所へ

適応指導教室を利用する児童生徒数は、年々増加傾向にあり、今後も同様の傾向が続くことが予想される。このことから、学校区に関係なく安心して通所できる場所が求められる。現在の場所からの移転は、そうしたニーズを満たすことができるほか、調理ができる部屋や体を動かすにも十分な広さの部屋など、児童生徒の多様な活用に対応できると考える。また、図書館等の文教施設もある静かな環境であり、心理的ストレスの軽減や、登校復帰にむけてよりスムーズに移行できる場所であると考えられる。

市街地公共施設等再配置構想

《令和2年9月》

・令和2年度実行計画以降に機能移転を図る施設があることから作成したものです。
・市街地の公共施設等のうち、近年建設した施設及び取り壊し・用途変更・移転・新築等を計画しているものを記載しています。

